

町内会

まちづくり」を考える～

ケースI 中島町小牧町会 事例発表

今日は、私が町会長として5年間、どのようにして地域に関わってきたかを、お話ししたいと思います。

私は、町会長になったとき、まずは地域のことを知ることからはじめました。知る方法として、回覧板を持って行くなど、機会を見つけてこまめに各家庭を訪問し、顔を合わせるようにしました。

この訪問活動を通して、支援や助けを必要としている方を把握することができました。また、その情報を民生委員の方などと共有して、対応するやり方をしてきました。

現在は、これまでにしてきた取り組みに加えて、青年団と女性会の有志で結成したチーム小牧とも情報共有をしています。

一人一人のお宅を訪問することで、コミュニケーションがとれ、信頼関係が生まれ、今では、困っている方から相談してくれるようになってきました。

一つの例をあげます。あるお宅を訪問しました。おばあちゃんが一人で暮らしています。「最近、腰も痛くて、外にも出れんげんわいね」と話されました。いつもなら、「ほ

んなら、ばあちゃん気いつけまっしね」と言って帰ってきていましたが、この時は、きつと話を聞いて欲しいのではないかと感じ、しばらく世間話をしました。

話を聞くと、どうも日頃から閉じこもり気味な様子でした。後日、公民館で行われている高齢者対象の「はつらつ教室」に、このおばあちゃんが参加しているかを聞いてみると、参加していないことがわかりました。こんな感じで地域の方と話をすると、これじゃいけないと気づくことがあるんです。

では、このような集まりの場に引っ張り出すには、どうしたらいいか。やはり、何か仕掛けがあるんじゃないかと考えました。その時、「支え合いマップづくり」に出会ったんです。これは、おばあちゃんの間関係がわかってくるので、仲のいい人から参加を促す方法をとりました。

また、お宅を訪問すると、いろいろな悩み事を聞きます。その場で解決できること、なかなか解決できず、行政などに委ねることもあります。そういった状況をうまくつかんで対応しています。

私は警察官OBです。現在七尾署で嘱託として、困りごと相談や、警察安全相談といったこともやっています。そういったことも踏まえて、地域の困りごとにも対応しているということなんです。

はたして10年20年後、この地域はどうなっているかなと考えると、まさに高齢化が進んでいると感じます。

しかし、そこに住む人に活力があり、住んでよかったと言える地域になっていけば、大丈夫ではないかと考えています。そんな地域を目指して、今、町会長として取り組んでいるところです。



小牧町会長

泉 一秋さん

この先、高齢化が進んでも
そこに住む人たちに活力が
あれば大丈夫！

今こそ ～「支え合いの

ケースⅡ 高階くれない太鼓 事例発表

私は、高階で「高階くれない太鼓」という太鼓活動をしています。今日は、仲間と共に作った「高階くれない太鼓」のグループ活動の成り立ちと、地域の保育園児やご年配の方たち、太鼓活動をしている人たちまで巻き込んだ40人を超える「たかしな世代間太鼓」というグループができるまでをお話ししたいと思います。

「高階くれない太鼓」は、平成8年に5人の母親グループでスタートしました。2年後には、高階保育園から太鼓の指導の依頼があり、教えに行くようになりました。同じように、高階小学校からも依頼があり、今も指導に行っています。

また、太鼓活動を数年やっているうちに、出演依頼が入ってくるようになりました。当時、太鼓の演奏レベルを上げるため、金沢まで通って、太鼓の指導を受けていました。通うのは大変でしたが、そこで、今の先生と出会うことができました。それからは、高階公民館にも教えに来ていただくなどして、どんどん上達していく自分たちを感じていました。

その頃、太鼓を使って、まちを元気にする取り組みが出ないかとメンバーと考えていました。そして、七尾市の協働のまちづくり推進事業に申請をし、助成をいただけるようになりました。

具体的には「高階を太鼓の町にしよう」を合言葉に、高階公民館で太鼓交流会を開催しました。地域内外から200人以上の方が来てくれて、盛大に開催され感無量でした。

その後も交流会を続ける中で思っていたんです。せっかく交流している保育園や小学校、池崎の太鼓同好会や高階くれない太鼓が集まるんだから、みんなと一緒に同じ曲を演奏しようじゃないかと。先生に曲と指導をお願いして、「高階の響き」ができ、「たかしな世代間太鼓」が誕生したんです。

そして、昨年の4回目の交流会では、若いお母さん5人のチームも加わりました。

また、「高階の響き」の太鼓教室に参加してくれた方々も加わり、こんな大きなチームとなりました。

今回のフォーラムのオープニングで演奏依頼が来た時

に、これは、地域を挙げての行事として、高階公民館の山本館長が、演奏までの準備にも汗をかいていただき、みんなをまとめてくれました。このように、私たちは人に恵まれ、環境に恵まれ、元気に活動できています。このことはとても幸せなことだと思っています。この気持ちも少しでも皆に恩返ししたいというので、これからも頑張っていきたいと思えます。5年10年100年、大好きな高階にこの「高階の響き」が轟くことを願っています。

高階くれない太鼓は
人に恵まれ 環境に恵まれ
幸せを感じています



高階くれない太鼓代表
辻口和美さん